

報 告 う で ま く り

一般社団法人
福島県女性経営者プラザ

和顔愛語 (わげんあいご)

福島県女性経営者プラザ

会 長 上 石 美代子



新型コロナウイルスが全世界に感染拡大し、東日本大震災から9年目を迎えた3月11日に、WHOがパンデミック(世界的流行)を宣言しました。3月13日現在、国内の感染者数は675人、死亡者数19人(その他クルーズ船、感染者数697人、死亡者数7人)、国外では、感染者数12万3千732人、死亡者数4591人です。いろいろな影響を受けておりますが、わがFJJPの3月例会も感染拡大予防のために中

止となりました。コロナウイルスは来年まで持ち越すかもしれないという報道もあり、仕事への影響も懸念されませんが、皆様！耐えて頑張りましょう。フィギアスケート宇野選手が「明けない夜はない」とおっしゃっていました。シェイクスピア「マクベス」の一節です。コロナウイルス感染の早い終息を祈るばかりです。

昨年10月に起きた台風19号による被害で大きな被害を受けた本宮市の会員が、翌11月にイベントを開催しました。被災してまだ立ち直っていない方々も参加され、みんなで笑ったら元気になりました。イベントを主催した会員も被災してのりに凄いです。頭が下がります。自分を顧みず他の人の為に汗を

◆ FJJPの目的 ◆

- ① 女性経営者としての資質向上
- ② 次の女性たちのための風土づくり
- ③ 共同事業の開発
- ④ 地域・社会への貢献

流す。なかなか出来ることではありません。会員の皆様の行動、言動を通して学ばせて戴いてると感じます。和顔愛語」という言葉があります。和やかな笑顔と、優しい言葉で相手に接するということです。少しの心がけで周りの人を幸せにできるということですよ。それが出来ない邪魔な何か？を取り除いて行動したいものです。

さて、私も会長を仰せつかって2期4年が経ちました。会員数の拡大、会員同士のこころの交流を胸に微力ながら頑張つて参りました。優しく見守つて頂きました理事、会員の皆様、本当に有難うございました。お陰様で会員も増え、参加するのが楽しいという声をお聞きますと、とても嬉しく思います。女性管理者、異業種交流、20代〜70代の年齢層、わがFJJPはまさに知恵蔵です。実績と経験から発する言葉は、経営のヒントが沢山あります。『楽しいから笑うのではない、笑うから楽しいのだ』(ウィリアム・ジェームズ)。

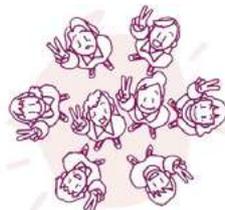
● うでまくりとは

古い川柳に「朝雨女の腕まくり」というのがある。天気のよい朝にバラバラと急に来る雨は、女の腕まくりと同じで意気込みだけ、大したことはない…という意味。FJJP、女の腕まくりの真価はこれから！

FJJPも参加するから楽しいのです。皆様と一緒に、これからも力強く進んでまいりましょう。

新入会員 募集中!!

トライ&チャレンジ精神の豊かな仲間たちが、あなたをお待ちしています。



第6回表彰式に華やかに勢揃い

人生はチャレンジだ!

●私は女性経営者になってこんな「しごと」をやってみたい!

第6回女子学生懸賞作文募集事業

受賞作品発表・表彰式開催

◆2020年2月1日(土) 13時30分～15時
◆福島民報社(福島市)3階「ゴールドの間」

福島県女性経営者プラザ主催の事業「女子学生懸賞作文事業」が第6回を迎え、受賞者の発表と表彰式が盛大に開催された。(写真は、表彰式に参加した受賞者「下段」と審査員「上段」)



司会の紺野副会長

増え、非常に内容が豊かで充実した作品が目だったことが特徴といえる。



挨拶をする上石美代子会長

◆主催者挨拶

会長 上石 美代子

毎回心のこもった情熱ある作品に出会い、その度に刺激を受け、私たちも新鮮な気持ちと新たな情熱で仕事に向かうことができました。既に夢を実現させるために歩み出した女子学生の方々も、今回受賞された女子学生の方々も、近い将来FJPと一緒に学び合える日が来るのではないかと期待しています。6回目を迎えることができたのは、共催の福島民報社高橋社長はじめ後援の福島県教育委員会、特別協賛の福島県中小企業団体中央会、協賛企業12社の皆様の暖かいご支援と、会員の行動力に支えられてきたからです。皆様から御礼申しあげます。

◆来賓祝辞

福島県教育委員会教育長

鈴木 淳 一様



表彰式では皆さんのような志をもった若者を育成するためのヒントが頂けるのが大変楽しみです。今日の若者は震災の経験があるからこそ、地域に貢献したいという強い気持ちや感謝の気持ちが生まれている。夢実現にむ

けてこれらもご自分の感性に自信をもって、成長されることを願っています。

福島県商工労働部部長

金 成 孝 典 様



どの作品も起業の目的がはっきりしていて社で活躍している姿が思い浮かびました。女性は活力ある地域づくりで、大きな役割を果たしています。明るく元気な行動力で、本県の復興と地方創生を牽引していつてほしいと期待しています。

◆審査結果発表

第6回受賞者は総勢10名、10作品。一次審査、公開審査を経て、金賞1篇(20万円)、銀賞2篇(各10万円)、銅賞2篇(各5万円)、奨励賞5篇(図書カード各1万円)の10編が選ばれました。

(注)受賞者はそれぞれ賞状と副賞が授与され、応募者全員に参加賞(クオカード500円)が進呈されます。



結果発表は瀬戸実行委員長

★金賞 遠藤真紀子さん



金賞の栄誉に輝いたのは、「予防医学と歯科衛生士の役割」と題する作文を書いた遠藤真紀子さん（福島医療専門学校歯科衛生士科）。

★銀賞 2名



銀賞の2人。港崎瑠夏さん(左)、ユオンティゴックヤウさん(右)

東日本国際大学健康福祉学部社会福祉学科に学ぶ港崎瑠夏さんと、ベトナムからの留学生でFSGカレッジリーグ国際ビジネス公務員大学校ビジネス

オフィス科で学ぶユオンティゴックヤウさん。港崎さんのタイトルは「発達障害を支援する事業をやりたい」、そして、ユオンティゴックヤウさんは「日本のコンビニエンスストアのようなお店を開業したい」。

★銅賞 2名

国際情報工科自動車大学校建築CAD設計科ヨンスンディーゴさんと、福島医療専門学校鍼灸科浦山妙子さんが受賞。

建築・設計を学ぶヨンスンディーゴさんの作文は、「自国のミャンマーで日本企業との橋渡し役になれるような事業をしたい」と未来像を描き、浦山さんは「スポーツの発展に貢献できる経営者になりたい」。



銅賞の2人。ヨンスンディーゴさん(左)と浦山妙子さん(右)

★奨励賞 5名

受賞者は、以下の通り

- ① 桜の聖母短期大学 遊佐美津穂さん 「夢の園づくりと憧れの保育」
- ② 郡山女子大学 小林真美さん 「管理栄養士として人々の健康のために」
- ③ 福島大学 大久保すみれさん 「活力ある共生社会福島の実現へ」
- ④ 郡山女子大学石井玲名さん 「福島の食から繋げるコミュニケーション」
- ⑤ 桜の聖母短期大学 佐藤新奈さん 一杯のスープが心あたためる「大人の食堂」を作りたい



▶表彰式出席の奨励賞受賞者の皆さん。写真右から、石井玲名さん、遊佐美津穂さん、佐藤新奈さん

◆審査委員長総評

福島県男女共生センター館長 千葉悦子氏



■第6回では年齢制限をなくしたこともあり、登壇する学生さんもさまざまでした。

■最終的に選ばれた10篇は甲乙つけがたく、どの作品も素晴らしかった。

■応募者の学校も短大、専門学校、大学と多様で、学んでいる専門領域も歯科衛生、健康福祉、鍼灸、生活科学科、福祉子ども、食物栄養、人間生活、キャリア教育と幅広い。県内の学生に少しは認知されてきたのかと思います。

■日本の、福島の今日的課題、あるいは今後益々重要になってくる課題解決につながる仕事に挑戦しようとする作品が多くみられました。

■食を通じた地域振興、健康と栄養、貧困格差問題にむきあうことも食堂、森の園づくり、発達障害、予防医学など、今学んでいることを軸にして、問題意識を膨らませています。根拠のない夢を抱いているわけではなく、可能性に向かう姿も共通しています。

■女性の視点、生活者の視点、社会的

弱者の視点、こういう視点で絆を志向していることも注目すべき点です。

■金賞の遠藤さんは、社会人としての経験を積みその過程で培った夢をかなえるために学び直しと起業に挑戦しています。銀賞と銅賞を受賞した留学生の2人は、自国を出て学ぶ。社会人が学び直しをするというのは将来の職業や人生の目標を明確化しないとできないことです。大変挑戦的です。若い学生にも刺激を与えた

審査員からの 応援メッセージ

福島民報社代表取締役

高橋 雅 行様



▲高橋雅行様

作品を読んで感銘を受けた。社会人でありながら、学生という立場で頑張っている女性がいることにも感動した。作
文事業の価値が高くなってきたように思
う。この価値をさらに大きなものにして
ほしい。

と思います。今回は若い学生に大いに発奮してもらいたい。そして県内に発信し
てくれることを期待したい。

■人生100年時代、生涯学習の重要性とグローバル化が広がる中で、ダイバーシティにふさわしい作文が多く受賞され、嬉しい。受賞を一つのステップとして、さらに深めてほしい。失敗を繰り返し返していく中からまた新しいものが生まれる。その時課題があれば、いつでも応援したい。

福島県中小企業団体中央会副会長

堀切 豊様



▲堀切 豊様

今回、審査員という立場で女性の視点で起業しようという作品に接し、非常に頼もしく感じました。経営者の多くは男性ですが、今後女性の経営者が
増えることを期待して
います。



佐川八重子様▶

東京産業人クラブ女性部会会長
佐川 八重子 様

今から50年前、混沌とした世の中にあつて、今がチャンスと桜ゴルフを設立したのは、私が26歳の時でした。皆さんは今がチャンス。夢をふくらませて、成功の華を咲かせてほしいと思います。

早めに到着した受賞者の緊張感を和らげる佐賀会員(中央)



澤上広報副委員長の呼び掛けで、地元テレビ局が取材。表彰式の様子は当日即夕方のニュースに。

ふくしまの自慢⑨ 三田公美子

郡山駅の水神さま

郡山駅とアテイの間に「水神さま」があるのをご存知の方は今となれば少なくなっているでしょうが、これは、郡山駅誕生にまつわるいいお話の一つです。

昔は駅といえばちょうどコロナウイルスのように病原体を運んでくるといつて恐れられ、そこで町と駅の離れているところが多いのですが、さすが開明の郡山市民はウエルカム駅の精神で現在の地に駅をひらいたのです。その一人が本町で大きな商売をしていた渡辺さんで、郡山の発展のためにと江戸時代から大事にしてきた渡辺家氏神の水神様を、水があれば蒸気機関車にも役立つだろう、さっぱりと譲ったのです。その渡辺さんは、「郡山信用金庫」の創業者であつたと伝えられています。つくづく昔の人は、偉いなあ。感心します。



10月公開講演会

これからの世界と日本、そして地域

講師 寺島実郎氏

日時：2019年10月5日（土）

11時～12時30分

会場：ホテルハマツ 3階「左近」

■冷静に情報を読む、歴史を知る

サンデーモーニング等でお馴染みの寺島先生。会場には20代から80代まで実に様々な世代の方々が約200人聴講。寺島先生がご用意くださった「寺島実郎の時代認識」資料集（2019年秋号）をテキストに、時代を見る視点を学びました。地域を意識して、丁寧にはわかりやすくお話ししてくれました。資料は実態を数値データで精緻に分析したエビデンスで構成されており、歴史



観を含めて読み応えのある内容になっています。日本と地方の現状と問題・課題の指摘が鋭く、他では得られない貴重な講演会でした。一般聴講した20代若者からも所感が寄せられました。若者らしい気づきが参考になるので、以下に紹介します。

■20代若者の所感

講演会を通じて、自分がいかに日本の現状に無関心だったかを痛感させられました。現在も進行形で、日本は裕福で世界的に見ても安心で安全な国であると思いついていましたが、2018年には世界のGDPシェアにおける日本の割合が6%とかなり低くなっているとのことでした。株式時価総額で見ても、日本のトップ5の合計がGAFA（Google・Apple・Facebook・Amazon）の約10分の1と、かなり低いことが分かります。

さらに、日本は現在、人口の約4割が65歳以上の高齢化社会となっています

が、これからの日本ではこの65歳以上の方々に仕事をしていただくことが課題となります。僕が勤務する会社でも65歳以上の方が在宅ワーカーとしてデータ入力等の仕事をしていますが、今後は様々な仕事の創出をし、高齢者の方が馴染みやすい仕事、例えば第一次産業への派遣等ができれば仕事の幅も広がるのではないかと思います。地域の企業として日本の現状を把握し、現在のニーズに合った仕事の提供や、またいかに高齢者の方々へ仕事が提供できるか、今後地域が成長するカギになると考えさせられました。



●会員エッセイ

「笑顔で交流の輪」

副会長 横山 りつ子

毎年、アルバイト学生のお別れ会をするが、今年は私の成人式の着物と袴を着せ、アルバイト卒業証書授与式を行った。近江牛のすき焼きと蟹しゃぶを堪能した後、街を歩き思い出を作った。彼女らは不安を抱えている。後日、手紙をもらった。「人生初のアルバイトで皆の心優しい人間性を知り、様々なお客様と留学生や先輩後輩とも多く関わる事ができ貴重な体験となりました。ここで学んだ接客や人間力をこれから社会人として発揮できればと思います。大学生活を支えて下さり感謝しています。楽しかったです。」

この便りは社員用のギャラリーにピンナップしている。ここにはアルバイト全員の笑顔がいっぱいある。

「陽はまた昇る、必ず朝が来る。」
コロナに笑顔で応戦しよう。



11月定例会

2019年11月12日(火)
場所・カルチエド・シャンブリアン
(いわき市)

『中小企業の未来、3つの脅威とそれに打ち勝つために』

講師・田辺 恵一郎氏

東京鋼鐵工業(株) 代表取締役社長

■サステナビリティ最高経営責任として

東京鋼鐵工業は父親が1954年に設立。入社した当時技術職人の集まりで腕は良いが、在庫表一つとってもいい加減で当てにならない。中小の創業企業によくある状態に陥り、売上も伸び悩んでいた。人件費削減で回復できても、短期的な抑制策にしかならない。経営者は社員を守ることが大事で、問題の本質を解決する必要がある。まず社員の意識改革、次に仕事のやり方を変えることにした。

未来に残したい、伝えていきたい技術・サービスに着目して企業として向かうべき方向を模索した。一例を紹介すると、提案型企画営業重視、オーダーメイド型、専用型重視。個別対応の中から適正ロットにつなげるために標準化する。従来なかった事業の流れを作ることができ、売り上げも増加するよ

■講師プロフィール

1957年生。慶応大学大学院修了。1984年東京鋼鐵工業入社。1995年2代目代表取締役社長に就任、現在に至る。非営利型株式会社プラットフォームサービソ会長/同地域産業おこしの会副理事長等兼務
東京鋼鐵工業株式会社概要
http://www.tokai-steel.co.jp/
本社・東京都北区/設立・1953年7月
事業内容・オフィス家具の設計製造販売、学校、病院、銀行、ホテル等の各種専用什器備品の製造販売他。

■脅威に打ち勝つために

経営者は、絶えず変化している環境要因や外部要因に目を向けるべきだ。いつも脅威にさらされている。脅威に打ち勝つてこそ未来があると思う。

今重要だと考えている脅威は、①ポピュリズムの脅威、②AI進展の脅威、③長寿の脅威、④バブル崩壊の脅威、の4つである。特に、AIと長寿は経営に少なからず影響を与える。思い切り長生きする時代の商売を見つければ、攻めてみる領域を探す。

活力ある地域であり続ける。そのためにも脅威を意識し、経営者同士連携していくことだと思う。



12月クリスマス例会

2019年12月10日(火)
場所・ドリーム(二本松市)



クリスマス例会では、ドリームさんの計らいでステキな音楽のプレゼントがありました！

令和2年2月定例会

2020年2月18日(火)
場所・ネーブルシティもとみやaube

『子育てを通してながら諦めない心を』

講師・青田 誠氏

(本宮市教育委員会委員長)

本日は仕事とは関係のない話、長男の話をした。長男は小学3年生の時急性白血病を発症し、いくつもの危機を乗り越え、30歳の現在まで元気に生きております。大学時代に目覚めた社

交ダンスのプロになり、結婚もし、夫婦でダンススタジオを経営しながら身をたてています。元気でいるのが奇跡だと、毎日日々感謝しております。

20年前、急性白血病は不治の病でした。20歳になるまで、大変過酷な検査と治療の繰り返し。家族が総出で看病、長男も家族も耐える日々でした。しかし誰一人として諦めなかった。極限状態に置かれた時でも、長男自身が諦めなかった。この「諦めない心」があったから完治できたと思います。長男の生きるという気力が一番の力でした。そして、母親の愛情と頑張りが生きる力となり、強く支えていた。「朝のこない夜はない」と諦めないで生きるということ、いろいろな人に支えられているということ、日常のご飯を食べる、風呂に入るといふ当たり前のことが、どんなに有難いかということ。退院の日「ありがとう」という思いが自然と出てきて、ありがとうの意味をかみしめることができました。この思いを、本日皆さんにお伝えできたこと、大変嬉しく思います。



新会員ご紹介

よろしくお願い致します

教員から新米社長へ

北藤電設株式会社

代表取締役 永峯 美緒さん

(福島市/総務委員会)



古川節子様のご紹介で9月からFJPに入会させていただきました。大学卒業

以来28年間、特別支援学校で教員をしておりましたが、3月末で退職し、4月から父の会社を継承することになりました。自分でも思いがけない人生の転機で令和がスタートしました。学校現場から送電現場へ。全く未知の世界ですので、建設用語ひとつから経営に関する諸々全てにおいて毎日が学びの日々です。

FJPにはお手本となる素敵な先輩方が沢山いらっしゃいます。毎月の例会に参加するだけで多くの刺激を頂き、モチベーションがあがります。何事にも全力で取り組む皆様方を追いかけて、経営者として成長していきたいと思っています。どうぞ宜しくお願い致します。

東日本大震災で人生が一変

アルファ電子株式会社

専務取締役 樽川 千香子さん

(岩瀬郡天栄村/交流委員会)



東日本大震災から9年という月日が流れましたが、あの震災によって私の人生

は一変しました。

震災直後、3か月の娘と新潟へ母子避難をしたことで様々なことが起こり、その3年後、離婚という選択と家業を継ぐという決断を同時にしたこと、このアルファ電子に入社しました。

3姉妹の真ん中という立場ではあります。昔から会社は大好きで唯一の遊び場でした。祖父が創業し、父が2代目となって50年という時間が流れています。女性活躍と騒がれている今だからこそ、父も娘が後継者になることに対し、納得できたのだと思います。

まだまだ勉強中の身であり不安なことが多い毎日ですが、こうして沢山の女性経営者の方々と交流できる環境を与えて頂き、感謝しております。

様々な活動を通じながら、福島県の女性として少しでも復興に役立っていけるよう、尽力して参ります。ご指導のほどよろしくお願ひいたします。

「跡取り娘のマナビバ」がご縁

理士法人三部会計事務所

企画室長 三部 香奈さん

(郡山市/広報・交流委員会)



会計事務所等でセミナー等の企画や広報、創業支援などを担当しています。

創業支援の一環として運営しているコワーキングスペースで、多様な働き方を実践している起業家の皆さんから刺激を受け、短時間で働きたい子育て中の女性が活躍できる経理・総務の代行会社(株式会社ケイリーパートナーズ)を設立し、ワークシェアリングやテレワークにも挑戦中です。

FJPとのご縁は、昨年9月の「跡取り娘のマナビバ」でした。上石美代子会長と佐藤直美さんの貴重な経験談をお聞きし、非常に感銘を受けるとともに、FJPの皆様の結束力とエネルギーを感じました。仲間入りできて嬉しです！

どうぞよろしくお願ひいたします。



佐藤君榮さん いわき商工会議所 副会頭に就任



この度のいわき商工会議所副会頭就任に際しまして、会より過分なるご祝儀や温かい励ましのお言葉を頂戴いたしましたこと、大変ありがたく心より感謝を申し上げます。

女性活躍時代と呼ばれるなか、微力ではございますがいわき経済界のためにお役にたてるなら、そして後進のため、道を拓けるならとの思いで、この役職をお引き受けさせていただきました。

私はFJPに入会以来、諸先輩方のご活躍を拝見するにつけ勇気をいただき、わが心を鼓舞し続けてまいりました。これからもご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

(広報・交流委員会 佐藤君榮)

活動を支えるFJP会員たち

上石美代子会長



講演会は真剣に!



安斎副会長



我らが、事業委員会!



作文発表会に向けて打ち合わせ!



表彰式の受付は私たちが…!

横山副会長



総務委員会の★!
例会の進行をチェック!

◆総務委員会より

■第6回女子学生懸賞作文の発表会・表彰式が、会員の素晴らしい連携プレーで無事終了したことに感慨深いものを感じております。皆様のできばきとした対応…さすがFJPの実力だと感じました。

■新型コロナ肺炎の拡大により、例年春に行っていた総務委員会は中止とさせていただきます。総務は、決算と総会に向けて忙しい時期でもあります。世の中のコロナ騒動が納まらないと先が見えません。でも、対策は怠らなく、臨機応変を常として準備をして参りたいと思います。2020年度もよろしくお願いたします。

(総務委員長 古川節子)

◆事業委員会より

■新型コロナ騒動で3月例会が中止となり、今年度行事も4月まとめ例会、5月定時総会のみとなりました。
■振り返ってみると、作文懸賞事業はもちろんの事、寺島実郎氏の講演会、その他多くの先生にご講話を頂き、有意義で大変勉強になった一年だったと思います。熱心に共に活動してくれた

皆様心から感謝しております。

■本年度のテーマは「新しいステージへ」でした。皆様、自分の新しいステージを見つけることができましたか。次年度も楽しいFJPへ!引き続きご協力ご支援を宜しくお願い致します。

(事業委員長 瀬戸孝子)

◆広報・交流委員会より

■毎年素敵な方々が入会され、何より嬉しいです。人生の転機や勇気ある選択をしながら、有難いことに、さらにFJPで学びたいと言ってくれます。本当に刺激になります。FJPには唯我独尊我が道をゆく先輩が沢山おられます。しかも皆優しい。今年度は、須賀川の万松でゆつくり歓談し、交流しました。

■新年度も大いに刺激し合い、夢を語りあえる会にしたいと願っております。

(広報・交流委員長 会田和子)

■編集後記

コロナでテレワークが急浮上中。仕事も教育ももちろん自宅で出来ませんが、地域での理解が一層進むことを期待したい。
(会田和子)

